

入選

巡り巡って

福井県 小浜中学校

2年 小松結咲

今年の春休み、私は母と滋賀県に出かけた。私たちは用事を済ませた後、京都駅まで出て時間を過ごした。構内で大好物のチーズタルトを購入して会計を終えると、隣で買い物中の外国人観光客が、困った様子で店員さんと話している姿が目に入った。行きたいお店の場所が分からないようだ。

母は、知っているあぶらとり紙のお店だ、と言って声をかけた。

「May I help you? (お手伝いしましょうか)」

そして、決して流暢ではない英語で、お店と反対側にある階段を指して説明した。私は母のことを、とても誇らしく思った。そして、うれしそうな彼女らの姿を見送り、私たちも電車に乗り込んだ。しかし、この気持ちは一瞬にして消えた。なぜなら、母が店内に携帯電話を置き忘れてきたことに気づいたからだ。

私はつい、あのとき声をかけなければ、とってしまった。しかし、この後、思わぬ幸運が母に舞い込むことになる。母は、時間の関係から京都駅まで引き返さないと決めた。バスの出発まで時間がなかったため、電車を降りるとすぐにバス停に向かい、同じバスに乗られる女性に声をかけて事情を話した。女性は快く携帯電話を貸してくださり、大変だったねと声をかけてくれた。おかげで、バス停まで迎えに来てくれる祖父と連絡をとることができ、母は何度も頭を下げた。

バスを降りると、今度は目の前の駅に向かい、駅員さんに事情を話した。すると、ここでも快く電話を貸してくださり、励ましてくれた。母はレシートでお店の電話番号を確認して、電話をかけた。電話の先の店員さんは母のことを覚えていてくださり、忘れ物センターで保管してもらっていると教えてくれた。そして、つながったままの電話をセンターに持って行き、母はセンターの方とも話をすることができた。さらには証人にもなってくださり、本人確認も済ませることができた。

母は、店員さんから逆に、お礼を言われたと話してくれた。本来なら、公的証明書を持って、再度、京都駅に行かなければならなかっただろうに。すぐに郵送手続きをしていただけるとは、本当にありがたいことだ。

祖父の迎えを待つて無事に帰宅し、私たちの長い1日は終わった。振り返ると、ふと、母の思いやりある行動が道案内だけではなかったことに気づいた。電車では子ども連れの女性に席を譲り、立ち寄ったコンビニでは、お年寄りにマスクの場所を聞かれて、いっしょに探した。私は、思いやりの心は世界に通じる、母の思いやりある行動が巡り巡って、母に還ってきたことを実感した。そして、人とのつながりや感謝の気持ちの連鎖に感動し、とてもあたたかい気持ちになった。

2日後、母の携帯電話が家に届いた。さっそく、店員さんにお礼の電話をしている母の姿に、私は再び、心が和んだ。そして、思いやりある行動をとっさにとれる、感謝の気持ちを決して忘れない母のような人間になりたい、と強く思った。